

日 付：2024 年 8 月 20 日

研修名：第 69 回 JR 広島病院オープンカンファレンス

タイトル：胆道・膵臓疾患の 2 次検診における超音波内視鏡検査

氏 名：小道 大輔

所 属：JR 広島病院 消化器内科

座 長：田妻 進 病院長

2024 年 4 月から JR 広島病院に赴任した小道といたします。専門は消化器の中でも胆道・膵臓です。ERCP の他、超音波内視鏡検査、経皮処置等を行っております。胆道・膵臓の 2 次検診として、CT や MRI も有用ですが、今回は超音波内視鏡検査について、解説します。

超音波内視鏡検査（以下、EUS）は、内視鏡先端の装置で行う胃十二指腸経由の超音波観察検査です。体表面からの腹部超音波検査との最大の違いは、目的の臓器に近接して観察できることです。そのため、画質が非常に良好で、胆嚢、総胆管、膵臓の詳細な構造や、CT や MRI で描出できない 1cm 以下の小さな腫瘍などを観察することが可能です。EUS は消化管粘膜下腫瘍の診断にも有用です。

講演では、EUS の有用性に関して、胆嚢腺筋腫症、膵嚢胞等の実症例を提示したいと思います。また、胆道・膵臓疾患における、腹部 US、CT、MRI、EUS、ERCP の使い分けに関しても、分かりやすく解説します。これらの検査を組み合わせることで診断精度を高めることが可能となります。

一次検診として、体外式超音波検査で二次精査必要な所見の拾い上げが重要となります。進行癌化を回避できる事例も少なからずありますので、胆道・膵臓所見を御指摘いただいた際には、御相談いただければ幸いです。